1.4　地形及び地質の状況

1.4.1 地形の状況

都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺の地形分類を図4-1-23に示す。

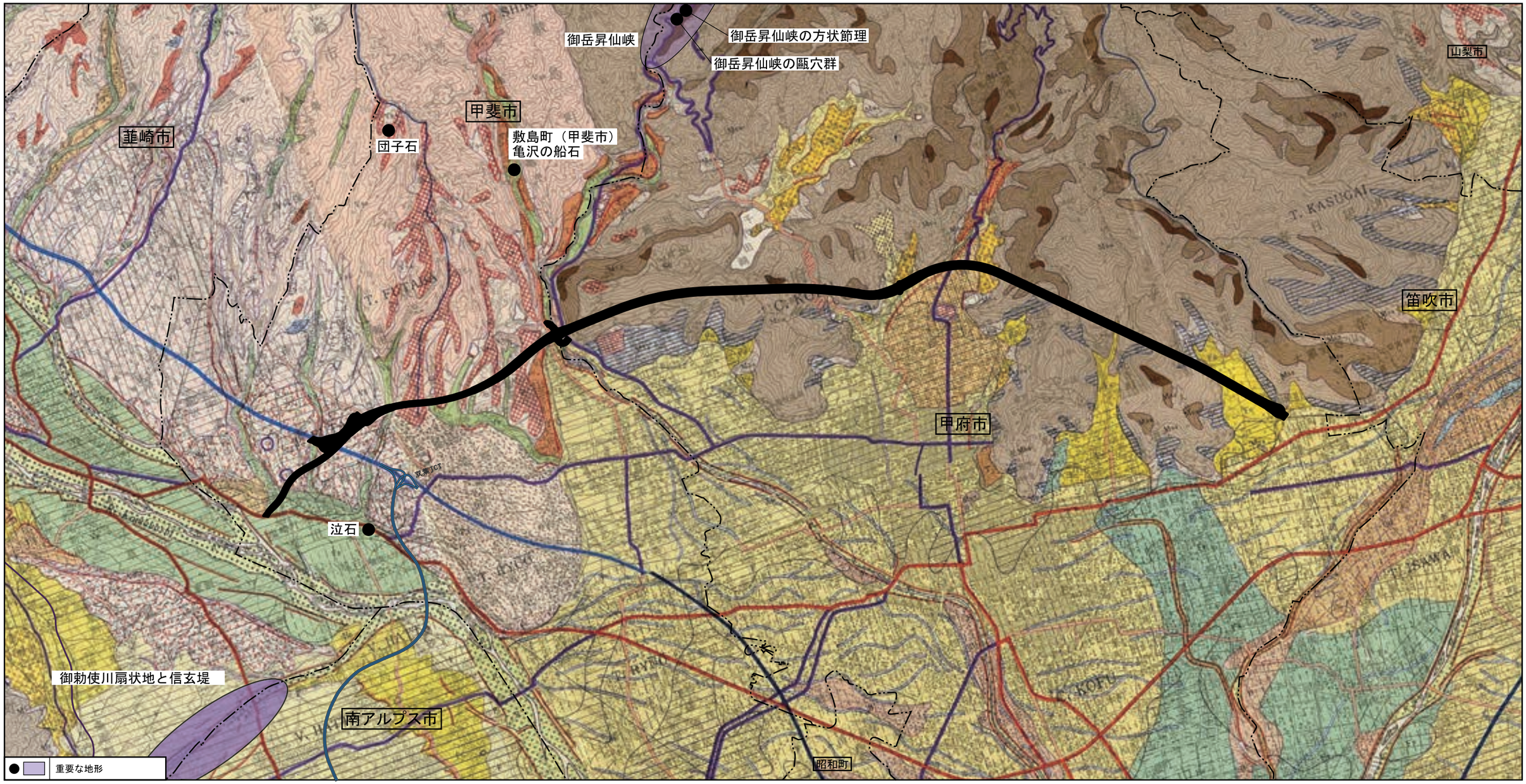
都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺は山梨県のほぼ中央の甲府盆地北辺に位置し、北半分が山地、南半分が低地で占められている。都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺の山地のうち、甲府市と甲斐市（旧敷島町）の境の東側は非火山山地、西側に火山地が分布している。また、台地･低地は、甲府盆地の北縁にあたり、河川により形成された扇状地や谷底平野が分布している。

なお、都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における重要な地形は、表4-1-27及び図4-1-23に示すとおり、御岳昇仙峡、御岳昇仙峡の方状節理、御岳昇仙峡の甌穴（おうけつぐん）群、甲斐市（旧敷島町）亀沢の船石、泣石、団子石、御勅使川扇状地と信玄堤の７箇所が存在する。

表4-1-27　都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における重要な地形と自然物

番号	名　称	所　在　地	摘　要	出典
1	御岳昇仙峡	甲府市吉沢、千田他	巨大な花崗岩の岩峰と典型的な渓谷地形を有している。現在では上流ダムの水量調節の結果 、水質の汚濁や渓谷特有の小地形の継続的な形成に懸念を示す指摘がされている。国の特別名勝に指定されている。日本の地形レッドデータブックではＣランク(注2)に指定されている。	③
2	御岳昇仙峡の方状節理	甲府市千田	岩石に対して方状に亀裂の入ったものを方丈節理と呼ぶ。昇仙峡では四角に割れているため、豆腐岩と呼ばれており、荒川右岸に安定した形で確認できる。	①
3	御岳昇仙峡の甌穴群	甲府市千田、上帯那町	滝壷や岩石の表面のくぼみを小石が回転して穴を深くした「下刻」の一種である。昇仙峡では河床の花崗岩の表面にいくつかの甌穴がみられ、説明板も設置されている。	①
4	甲斐市（旧敷島町）亀沢の船石	甲斐市（旧敷島町）亀沢	亀沢川右岸の段丘上にある周囲55m、高さ8.3mの黒雲母花崗岩の巨礫である。上流の花崗地域から崩壊して山津波にのり運ばれてきたものと考えられている。甲斐市指定天然記念物である。	①
5	泣石	甲斐市（旧双葉町）	高さ3.8m、幅2.7m、奥行き3.7m、重さ30ｔ（推定）の巨石である。石の割れ目から水が流れ出していたが、鉄道の開通により現在は水脈が断たれている。武田勝頼に関する伝説がある。	②
6	団子石	甲斐市（旧双葉町）	直径２cm前後の球状の火山性の石で、外側は黄褐色、内部は黒褐色である。茅ヶ岳山嶺の標高1,000m前後のローム層下部から産出し、地底で砕屑礫が脱アルカリ作用を受け、これを核に凝灰質砂が付着し形成されたと言われている。弘法大師に関する伝説がある。	②
7	御勅使川扇状地と信玄堤	甲斐市	御勅川は過去氾濫が多く土砂生産量が多いため、典型的な扇状地を形成している。信玄堤はこの川の治水事業の一つであり、現在も一部で機能している。扇状地と信玄堤は、日本の地形レッドデータブックにそれぞれ、Ｂ及びＣランクに指定されている。	③

出典：①「山梨県天然記念物緊急調査報告書－地質・鉱物－」（平成８年　山梨県教育委員会）
②「双葉町誌」（平成９年５月　双葉町）
③「日本の地形レッドデータブック 第２集－保存すべき地形－」（平成14年 小泉武栄、青木賢人）



凡　例

記号	名　称	記号	名　称	記号	名　称	記号	名　称	記号	名　称	記号	名　称
火山山地			火山麓扇状地		崩落崖および崩落物質堆積面、大崩壊崖	台地・低地			洪水堆積物（明治40年）		崖、比高10m以下
	火山斜面40°以上		急崖		大崩壊崖		低地8°～3°		小扇状地	その他	
	火山斜面30°～40°		流れ山		地すべり性崩落崖		低地3°～1/2°		開析小扇状地		人工平坦地
	火山斜面15°～30°	山地斜面			カール壁		低地1/2°～1/4°	Vp	谷底平野		活断層、顕著なリニアメント
	火山斜面15°以下		山地斜面40°以上		カール壁および氷河堆積物		低地1/4°以下		現河床		堤防
	火山山麓地Ⅱ		山地斜面30°～40°		岩屑斜面		砂礫台地		旧流路		主要分水界
	熔岩流地		山地斜面15°～30°		地すべり		扇状地		土石流地形		高速自動車道
	火砕流台地		山地斜面15°以下		崩壊地		開析扇状地		古期土石流斜面		国道
	火砕流地		山頂および山稜平坦面、顕著な凸型斜面		新期土石流地形	Fs	氾濫平野、後背低地		崖、比高50～100m		主要地方道
	韮崎火山岩屑流		顕著な凹型斜面		古期土石流扇状地および堆積面		旧中州、ポイントバー		崖、比高10～50m		県道

市町界

都市計画対象道路事業実施区域

1/50,000

1,000　0　1,000　2,000m

出典：
「土地分類基本調査　地形分類図　甲府」
昭和59年　山梨県企画管理局土地水対策課
「土地分類基本調査　地形分類図　御岳昇仙峡」
昭和60年　山梨県企画管理局土地水対策課
「土地分類基本調査　地形分類図　韮崎・市之瀬」
昭和61年　山梨県企画管理局土地水対策課
「土地分類基本調査　地形分類図　大河原・鰍沢」
平成5年　山梨県農務部農村整備課
「山梨県天然記念物緊急調査報告書ー地質・鉱物ー」
平成８年　山梨県教育委員会
「双葉町誌」　平成９年５月　双葉町
「日本の地形レッドデータブック 第２集ー保存すべき地形ー」
平成14年 小泉武栄、青木賢人

図4-1-23　地形分類図及び
重要な地形と自然物

1.4.2 地質の状況

都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺の表層地質を、図4-1-24に示す。

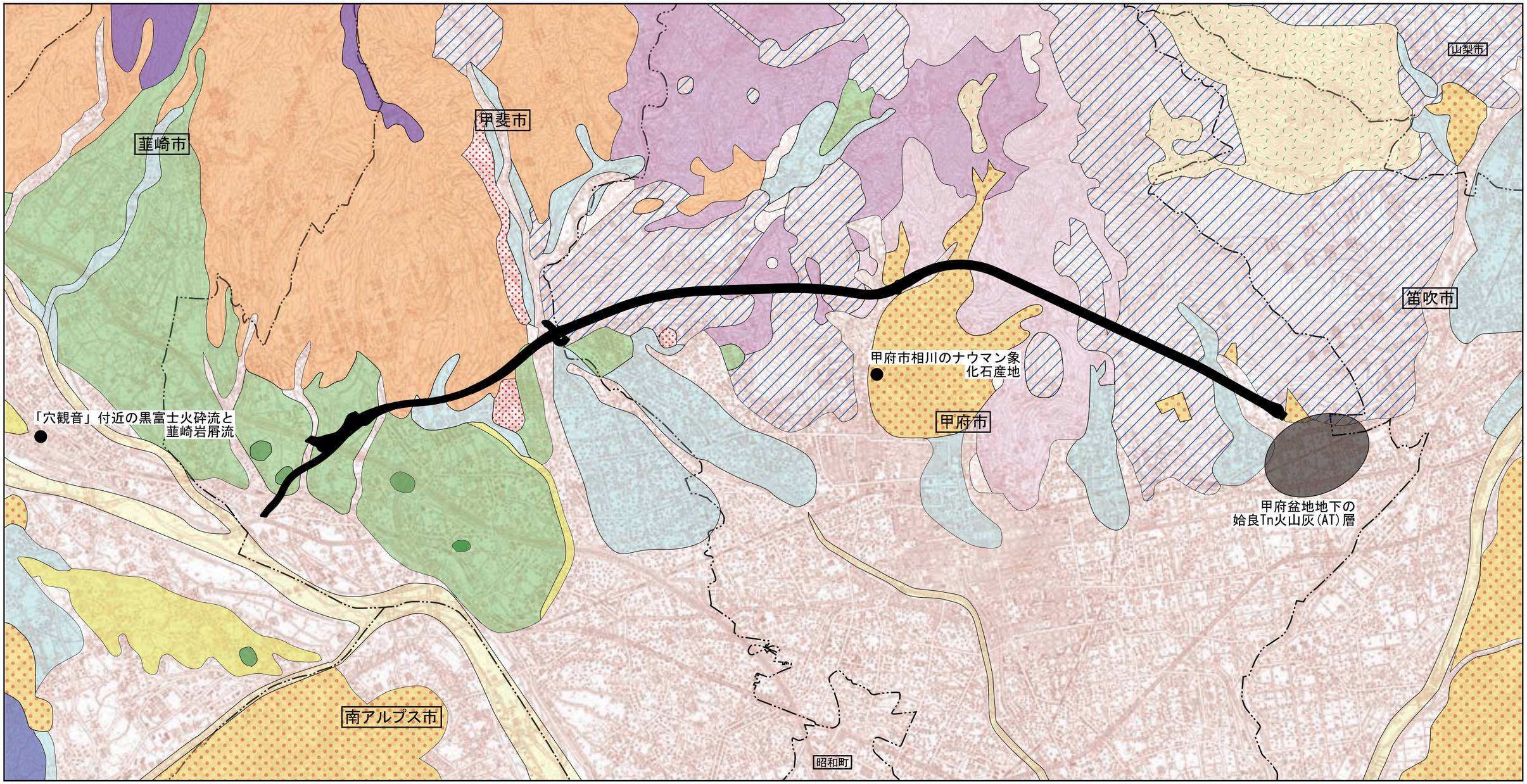
「甲府盆地地下構造調査業務 成果報告書」（平成16年 山梨県）及び「地質図幅－甲府－」（平成14年 独立行政法人 産業技術総合研究所地質調査総合センター）によると、都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺の主な地質は、水ヶ森火山岩、太良ヶ峠火山岩（安山岩、安山岩質凝灰角礫岩など）を始めとする火山岩を基盤とし、黒富士火砕流（デイサイト火砕流堆積物）、中部礫層（砂礫層、シルト）、韮崎岩屑流（安山岩）、上部礫層（砂礫層、シルト）から構成されており、千代田湖周辺には黒雲母花崗岩などの昇仙峡深成岩（貫入岩類）が露出している。さらに、非火山地である甲府盆地市街地周辺は、扇状地堆積物や段丘堆積物で構成されている。

なお、都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における重要な地質としては、表4-1-28及び図4-1-24に示すとおり、甲府市相川のナウマン象化石産地、甲府盆地地下の姶良Tn火山灰（AT）層、「穴観音」付近の黒富士火砕流と韮崎岩屑流の３箇所存在する。

表4-1-28　都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における重要な地質体

番号	名　称	所 在 地	摘　要
1	甲府市相川のナウマン象化石産地	甲府市北新、緑が丘	現況では両岸に護岸工事がなされており、改変の際は専門家の立ち会いが必要である。
2	甲府盆地地下の姶良Tn火山灰（AT）層	甲府市桜井町他	鹿児島港北部の姶良カルデラからの噴出物で、本州のほとんど全域に分布する広域火山灰として知られる。淡いピンク色をしたガラス質火山灰で噴出年代は、2.1～2.2万年前。考古学及び地質学上極めて重要な鍵層。
3	「穴観音」付近の黒富士火砕流と韮崎岩屑流	韮崎市中央町、雲岸寺境内	「穴観音」付近は、七里岩の末端部に当たり、穴山橋より下流では崖の下半部に白色の黒富士火砕流が現れており、崖の上半部は、暗灰色の韮崎岩屑流に覆われている。

出典：「山梨県天然記念物緊急調査報告書－地質・鉱物－」（平成８年　山梨県教育委員会）



凡　例

記　号	分　類	名　　称	記　号	分　類	名　　称
	現河床堆積物	礫及び砂		茅ヶ岳火山	安山岩火砕流堆積物
	氾濫原及び谷底平野堆積物	礫、砂、シルト、粘土及び褐炭		黒富士火山	デイサイト火砕流堆積物
	扇状地堆積物	礫、砂及び泥		水ヶ森火山岩	安山岩溶岩及び火砕岩
	低位段丘堆積物	礫、砂及び泥		東山梨火山深成複合岩体	デイサイト－安山岩火砕流堆積物（溶岩を伴う）
	中位段丘地堆積物	礫、砂及び泥		太良ヶ峠火山岩	安山岩溶岩及び火砕岩
	高位段丘堆積物	礫、砂及び泥		昇仙峡深成岩体	黒雲母花崗岩
	古八ヶ岳火山	火山岩塊		国界橋深成岩体	紫蘇輝石石英閃緑岩
		火山岩屑（火砕堆積物、礫、砂、泥及び泥炭を伴う）	●	重要な地質	

市町界

都市計画対象道路事業実施区域

1/50,000

1,000　0　1,000　2,000m

出典：「地質図幅 －甲府－ 」平成14年
独立行政法人 産業技術総合研究所
地質調査総合センター
「山梨県天然記念物緊急調査報告書
－地質・鉱物－」平成８年
山梨県教育委員会

図4-1-24　表層地質図及び重要な地質体

1.5　動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

1.5.1 動物の状況

1）動物相の状況

文献調査により確認された動物相の状況を以下に示す。なお、文献調査に用いた文献は表4-1-29に示すとおりである。

(1) 哺乳類

文献調査により確認された都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における哺乳類としては、ニホンザル、キクガシラコウモリ、ヤマコウモリ、ヤマネ、ニホンリス、ムササビ、ホンドモモンガ、ノウサギ、タヌキ、キツネ、イタチ、テン、オコジョ、アナグマ、ツキノワグマ、ニホンイノシシ等の16科36種が挙げられる。（出典：1、2、3、4、5、6、7、8、9）

(2) 鳥 類

文献調査により確認された都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における鳥類としては、オオタカ、クマタカ、フクロウのような猛禽類や、キジ、キジバト、ホトトギス等の43科216種が挙げられる。（出典：1、2、3、4、5、6、7、8、9）

また、都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺におけるオオタカの調査状況を以下に示す。

a）オオタカ調査状況

(a)背景と調査目的

新山梨環状道路（北部区間）が想定されている甲府北部地域（以下「調査区域」という）を対象としたオオタカの生態を把握するために、山梨県の野鳥専門家からなる「甲府北部オオタカ検討会」（国土交通省甲府河川国道事務所主催）が設立されている。

オオタカの生態を把握するために、「甲府北部オオタカ検討会」が取りまとめた内容は以下のとおりである。

(b)調査概要

オオタカの繁殖期にあたる１月から８月を調査時期とし、平成12年12月から平成14年６月までに、広域調査１回、林内調査３回、定点観測14回、営巣適性林調査１回、一般鳥類調査３回、コドラート調査１回が実施された。また、文献による調査もあわせて実施されている。

さらに平成19年８月まで、オオタカの行動圏（最大行動圏、高利用域、営巣中心域）の把握調査、餌動物調査、飛翔行動等の観察、一般鳥類調査、その他の猛禽類調査が行われている。

(c)調査結果

・行動圏調査

平成１７年７月までの調査結果では、調査区域には4つがいの営巣が確認されている。

そのうち、２営巣地では「猛禽類保護の進め方（環境省自然環境局編）」にしたがった２営巣期を含む1.5年以上の行動圏調査及び行動圏解析が終了した。

残りの３営巣地では、平成19年８月までに行動圏調査を実施した。

・踏査調査

平成14年６月に２営巣地を確認し、雛をそれぞれ２羽ずつ確認するとともに、営巣木周辺で食痕を確認した。さらに、平成16年６月に別の２営巣地を確認した。

・営巣環境調査

（営巣適性林調査）

現存植生図（環境庁）より、オオタカの営巣適性条件の一つであるアカマツ林を抽出した結果、調査区域にはオオタカの営巣する可能性が高いアカマツ林が広く分布していることが確認された。

また、森林簿（山梨県）からオオタカの営巣する可能性が高い林野規模12ha以上かつ樹齢35年以上のアカマツ林及びアカマツ混合林を抽出した結果、調査区域にはアカマツ林が広く分布していることが確認された。

（コドラート調査）

新山梨環状道路（北部区間）のルート明かり部より概ね500m範囲内を対象とし、過去の林内調査時に把握した樹林の分布状況を基に、森林簿から樹種、樹齢を補足し、調査地域を同じ性質の林区分とした。林区分ごとに15m×15mのコドラートを１か所程度抽出し、コドラート調査を22箇所で実施した。

その結果、22箇所のうち９箇所がオオタカの営巣環境として評価が高かった。

（一般鳥類調査）

オオタカの餌とされている一般鳥類は、キジ、ヤマドリ、コジュケイ、カモ類、バン、オオバン、カイツブリ類、ハト類、カケス、カラス類、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミが挙げられる。(『日本のワシタカ類』図鑑より)

一般鳥類調査によると、ヒヨドリ・ムクドリの確認数が最も多く、カモ類・ハト類・カラス類・ツグミも比較的多く、その他の種は確認数が少ないことが確認された。

・基礎調査

営巣木の中心から半径1.5kmの範囲において、植生図、気象データ等を基にした自然環境調査を実施した。また、土地利用図等を基にした社会環境調査を実施した。

・巣内調査

ＣＣＤカメラによる巣内観察を行い、産卵・孵化・巣立ちを確認した。

（出典：12、13、14、15、16、17、18）

・モニタリング調査

行動圏解析の終了した営巣地について、平成23年７月までモニタリング調査を行った。

(3) 両生・爬虫類

文献調査により確認された都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における両生・爬虫類としては、ハコネサンショウウオ、アズマヒキガエル、アマガエル、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル等の両生類６科13種及びイシガメ、アオダイショウ、ヤマカガシ、ジムグリ、シマヘビ、マムシ、カナヘビ、トカゲ等の爬虫類７科14種が挙げられる。（出典：1、4、5、6、7、8、9、10）

(4) 魚類

文献調査により確認された都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における魚類としては、荒川水系では上流にイワナ、アマゴ、下流になるにつれてウグイ、コイ、フナ等が生息するようになる他、オイカワ、アブラハヤ、アユ、ニジマス、カジカ、メダカ、スジシマドジョウ、ホトケドジョウ、ギバチ、エドハゼ、テラピア等の15科42種が生息しているとされている。都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺内における主な湖沼である千代田湖では、コイ、フナ、オイカワ、ワカサギ、オオクチバス等が確認されている。（出典：1、4、5、7、8、9、10、11、21）

(5) 昆虫類

文献調査により確認された都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における昆虫類としては、トンボ類、バッタ類、カメムシ類、コウチュウ類、ハチ類、ハエ類等の271科2108種が挙げられる。（出典：1、4、8、12、19、22）

(6) 底生動物

文献調査により確認された都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における底生動物としては、甲殻類、ミミズ類、水生昆虫類等の79科193種が挙げられる。（出典：1、20、23）

表4-1-29　動物出典リスト

番号	出　　典	哺乳類	鳥類	オオタカ	両生・爬虫類	魚類	昆虫類	底生動物
1	山梨県の野生動物 （昭和55年　山梨県県民生活局自然保護課）	○	○		○	○	○	○
2	山梨県市町村別鳥獣生息調査報告書 （昭和56年　山梨県林務部林政課）	○	○					
3	希少種を主とする山梨県の野生鳥獣生息調査 （平成９年　山梨県）	○	○					
4	甲府の自然（平成元年　甲府市）	○	○		○	○	○	
5	韮崎市誌（昭和53年　韮崎市）	○	○		○	○		
6	敷島町誌（昭和41年　敷島町役場）	○	○		○			
7	石和町誌（昭和62年　石和町）	○	○		○	○		
8	双葉町誌（昭和52年　双葉町）	○	○		○	○	○	
9	春日居町誌（昭和63年　春日居町）	○	○		○	○		
10	山梨県の主要野生動物（昭和47年　山梨県教育委員会）				○	○		
11	河川水辺の国勢調査　富士川魚介類調査 （平成10年度　関東地方建設局甲府工事事務所）					○		
12	新山梨環状道路北部区間環境レポート （平成14年９月　国土交通省甲府工事事務所）			○				
13	オオタカ調査の報告 （平成14年12月　国土交通省甲府工事事務所記者発表資料）			○				
14	甲府北部地区のオオタカに関する調査について （「甲府北部オオタカ検討会」報告） （平成15年６月　国土交通省甲府河川国道事務所記者発表資料）			○				
15	甲府北部地区のオオタカに関する調査について （「甲府北部オオタカ検討会」報告） （平成16年１月　国土交通省甲府河川国道事務所記者発表資料）			○				
16	甲府北部地区のオオタカに関する調査について （「甲府北部オオタカ検討会」報告） （平成16年７月　国土交通省甲府河川国道事務所記者発表資料）			○				
17	甲府北部地区のオオタカに関する調査について （「甲府北部オオタカ検討会」報告） （平成18年９月　国土交通省甲府河川国道事務所記者発表資料）			○				
18	甲府北部地区のオオタカに関する調査について （「甲府北部オオタカ検討会」報告） （平成19年８月　国土交通省甲府河川国道事務所記者発表資料）			○				
19	河川水辺の国勢調査　富士川陸上昆虫類調査 （平成9年度　関東地方建設局甲府工事事務所）						○	
20	河川水辺の国勢調査　富士川底生動物調査 （平成10年度　関東地方建設局甲府工事事務所）							○
21	河川環境データベース(河川水辺の国勢調査) 富士川魚介類調査（平成16年度　国土交通省）					○		
22	河川環境データベース（河川水辺の国勢調査） 富士川陸上昆虫類等調査（平成14年度　国土交通省）						○	
23	河川環境データベース（河川水辺の国勢調査） 富士川底生動物調査（平成16年度　国土交通省）							○

2) 重要な動物の状況

(1) 哺乳類

文献調査により確認された重要な哺乳類としては、表4-1-30に示す６目11科14種が挙げられる。

表4-1-30　重要な哺乳類

No.	目名	科 名	種 名	選定基準					
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
1	モグラ	トガリネズミ	カワネズミ						N
2	コウモリ	ヒナコウモリ	ヤマコウモリ			NT			NT
3			ニホンコテングコウモリ						VU
4	サル	オナガザル	ニホンザル				○	○	
5	ネズミ	リス	ホンドモモンガ				○		NT
6		ヤマネ	ヤマネ	Ⅰａ		NT	○		NT
7	ネコ	クマ	ツキノワグマ						N
8		イヌ	タヌキ					○	
9			キツネ					○	
10		イタチ	オコジョ			NT	○		
11			アナグマ					○	
12	ウシ	イノシシ	ニホンイノシシ					○	
13		シカ	ニホンジカ					○	
14		ウシ	カモシカ	Ⅰａ			○		
６目11科14種				－					

選定基準は以下のとおり
選定基準Ⅰ：国、県、市町村の天然記念物（1950年制定、文化財保護法）
　　Ⅰａ：国指定　Ⅰｂ：山梨県指定　Ⅰｃ：市町村指定
選定基準Ⅱ：国内希少野生動植物の指定種（1992年制定、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）
選定基準Ⅲ：環境省レッドリスト　哺乳類（2007年、環境省）
　　EX：絶滅　CR：絶滅危惧IA類　EN：絶滅危惧IB類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧
　　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群
選定基準Ⅳ：自然環境保全調査報告書（1976年、環境庁）における主要野生動物
選定基準Ⅴ：学識経験者選定種（学識経験者意見により当該地域において重要と判断された種）
選定基準Ⅵ：山梨県レッドデータブック（2005年、山梨県）
　　EW：野生絶滅　CR：絶滅危惧ⅠA類　EN：絶滅危惧ⅠB類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧
　　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群　N：要注目種
配列・分類:「日本産野生生物目録－脊椎動物編」（1993年、環境庁）

(2) 鳥類

文献調査により確認された重要な鳥類としては、表4-1-31に示す14目26科68種が挙げられる。このうち、全国レベルの重要な種は、オオタカ、クマタカ、イヌワシ、ハヤブサ等である。なお、表中の※印は、文献の発行当時より都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺の土地利用等の状況が大きく変化しているため、現在では都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺に生息していないと考えられる種であることを示している。

また、位置が判明している種について、その位置を図4-1-25に示す。

表4-1-31(1)　重要な鳥類

No.	目名	科 名	種 名		選定基準					
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
1	ミズナギドリ	ミズナギドリ	シロハラミズナギドリ※				DD			
2	ペリカン	ウ	カワウ					○		
3	コウノトリ	サギ	サンカノゴイ※				EN		○	
4			ヨシゴイ				NT			NT
5			オオヨシゴイ※				EN			DD
6			ミゾゴイ				EN			EN
7			チュウサギ				NT			
8	カモ	カモ	マガン※		Ⅰa		NT			
9			ヒシクイ※	(ヒシクイ)	Ⅰa		VU			
				(オオヒシクイ)	Ⅰa		NT			
10			オシドリ				DD			
11			トモエガモ				VU			
12			ヨシガモ					○		
13			アカハジロ※				DD			
14	タカ	タカ	ミサゴ				NT			DD
15			ハチクマ				NT			VU
16			オオタカ			Ⅱa	NT			NT
17			ツミ							NT
18			ハイタカ				NT			VU
19			サシバ				VU			NT
20			クマタカ			Ⅱa	EN	○		EN
21			イヌワシ※		Ⅰa	Ⅱa	EN	○		CR
22			チュウヒ				EN			DD
23		ハヤブサ	ハヤブサ			Ⅱa	VU			VU
24			チゴハヤブサ※						○	
25			コチョウゲンボウ							NT
26			チョウゲンボウ						○	
27	キジ	キジ	ウズラ※				NT			DD
28	ツル	クイナ	クイナ							DD
29			ヒクイナ				VU			DD
30	チドリ	タマシギ	タマシギ							VU
31		チドリ	シロチドリ							NT
32			タゲリ						○	

表4-1-31(2)　重要な鳥類

No.	目名	科 名	種 名	選定基準					
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
33	チドリ	シギ	アカアシシギ※			VU	○		
34			ホウロクシギ※			VU			
35			ヤマシギ						DD
36			オオジシギ※			NT	○		VU
37			アオシギ						DD
38		カモメ	コアジサシ		Ⅱｂ	VU			NT
39	フクロウ	フクロウ	トラフズク						VU
40			コミミズク						NT
41			コノハズク				○		EN
42			オオコノハズク						VU
43			アオバズク						NT
44			フクロウ						NT
45	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			VU			VU
46	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ※						DD
47	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ				○	○	
48			アカショウビン						EN
49			カワセミ	Ⅰｃ			○		
50		ブッポウソウ	ブッポウソウ			EN	○		EN
51	キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ						DD
52	スズメ	ツバメ	コシアカツバメ						NT
53		サンショウクイ	サンショウクイ※			VU			NT
54		モズ	チゴモズ			CR			EN
55			アカモズ			EN			VU
56		レンジャク	キレンジャク						NT
57			ヒレンジャク						NT
58		ヒタキ	マミジロ						NT
59			トラツグミ						NT
60			サンコウチョウ						NT
61		キバシリ	キバシリ						DD

表4-1-31(3)　重要な鳥類

No.	目名	科 名	種 名	選定基準					
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
62	スズメ	ホオジロ	コジュリン※			VU	○		DD
63			ミヤマホオジロ						NT
64			ノジコ			NT			NT
65			クロジ						DD
66		アトリ	ハギマシコ				○	○	
67			オオマシコ						DD
68			イスカ						DD
14目26科68種				―					

注）表中の※印は、文献の発行当時より都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺の土地利用等の状況が大きく変化しているため、現在では都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺に生息していないと考えられる種であることを示している。

選定基準は以下のとおり
選定基準Ⅰ：国、県、市町村の天然記念物（1950年制定、文化財保護法）
　　Ⅰａ：国指定　Ⅰｂ：山梨県指定　Ⅰｃ：市町村指定
選定基準Ⅱ：国内および国際希少野生動植物の指定種（1992年制定、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）
　　Ⅱａ：国内希少野生動植物　Ⅱｂ：国際希少野生動植物
選定基準Ⅲ：環境省レッドリスト　鳥類（2006年　環境省）
　　EN：絶滅危惧ⅠB類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足
選定基準Ⅳ：自然環境保全調査報告書（1976年、環境庁）における主要野生動物
選定基準Ⅴ：学識経験者選定種（学識経験者意見により当該地域において重要と判断された種）
選定基準Ⅵ：山梨県レッドデータブック（2005年、山梨県）
　　EW：野生絶滅　CR：絶滅危惧ⅠA類　EN：絶滅危惧ⅠB類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅惧
　　DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群　N：要注目種
分類・配列：「日本産野生生物目録－脊椎動物編」(1993年、環境庁)

(3) 両生・爬虫類

文献調査により確認された重要な両生・爬虫類としては、表4-1-32に示す７科10種が挙げられる。また、位置が判明している種について、その位置を図4-1-25に示す。

表4-1-32　重要な両生・爬虫類

No.	目名	科 名	種 名	選定基準					
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
1	サンショウウオ	サンショウウオ	ハコネサンショウウオ				○		
2		イモリ	イモリ						VU
3	カエル	アカガエル	タゴガエル				○		
4			トノサマガエル						NT
5		アオガエル	カジカガエル				○		
6			モリアオガエル				○		
7	カメ	イシガメ	イシガメ			DD			VU
8		スッポン	スッポン			DD			
9	トカゲ	ヘビ	シマヘビ						VU
10			シロマダラ						DD
7科10種				―					

選定基準は以下のとおり
選定基準Ⅰ：国、県、市町村の天然記念物（1950年制定、文化財保護法）
選定基準Ⅱ：国内希少野生動植物の指定種（1992年制定、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）
選定基準Ⅲ：環境省レッドリスト　両生類・爬虫類（2006年、環境省）
CR：絶滅危惧ⅠA類　EN：絶滅危惧ⅠB類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足
選定基準Ⅳ：自然環境保全調査報告書（1976年、環境庁）における主要野生動物
選定基準Ⅴ：学識経験者選定種（学識経験者意見により当該地域において重要と判断された種）
選定基準Ⅵ：山梨県レッドデータブック（2005年、山梨県）
EW：野生絶滅　CR：絶滅危惧ⅠA類　EN：絶滅危惧ⅠB類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧
DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群　N：要注目種
分類・配列：「日本産野生生物目録－脊椎動物編」(1993年、環境庁)

(4) 魚類

文献調査により確認された重要な魚類としては、表4-1-33に示す５目６科７種が挙げられる。

表4-1-33　重要な魚類

No.	目名	科 名	種 名	選定基準					
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
1	ウナギ	ウナギ	ウナギ			DD			
2	サケ	サケ	ヤマメ			NT			LP
3			アマゴ			NT			LP
4	コイ	ドジョウ	スジシマドジョウ			VU			
5		コイ	キンブナ			NT			
6	メダカ	メダカ	メダカ			VU			VU
7	カサゴ	カジカ	カジカ			NT			N
5目6科7種				―					

選定基準は以下のとおり
選定基準Ⅰ：国、県、市町村の天然記念物（1950年制定、文化財保護法）
選定基準Ⅱ：国内希少野生動植物の指定種（1992年制定、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）
選定基準Ⅲ：環境省レッドリスト　汽水・淡水魚類（2007年、環境省）
EX：絶滅　CR：絶滅危惧IA類　EN：絶滅危惧IB類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧
DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群
選定基準Ⅳ：自然環境保全調査報告書（1976年、環境庁）における主要野生動物
選定基準Ⅴ：学識経験者選定種（学識経験者意見により当該地域において重要と判断された種）
選定基準Ⅵ：山梨県レッドデータブック（2005年、山梨県）
EW：野生絶滅　CR：絶滅危惧ⅠA類　EN：絶滅危惧ⅠB類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧
DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群　N：要注目種
分類・配列：「日本産野生生物目録－脊椎動物編」(1993年、環境庁)

(5) 昆虫類

文献調査により確認された重要な昆虫類としては、表4-1-34に示す５目14科32種が挙げられる。また、位置が判明している種について、その位置を図4-1-25に示す。

表4-1-34(1)　重要な昆虫類

No.	目 名	科 名	種 名	選定基準					
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
1	トンボ	カワトンボ	アオハダトンボ						N
2		オニヤンマ	オニヤンマ					○	
3		ヤンマ	ギンヤンマ					○	
4	カメムシ	ツチカメムシ	シロヘリツチカメムシ			NT			
5	コウチュウ	クワガタムシ	オオクワガタ			VU			N
6			ヒラタクワガタ						N
7		ホタル	ゲンジボタル				○	○	
8		カミキリムシ	トラフカミキリ						NT
9			ヒメビロウドカミキリ						DD
10	ハチ	スズメバチ	チャイロスズメバチ					○	
11	チョウ	セセリチョウ	ホシチャバネセセリ			CR+EN			EN

表4-1-34(2)　重要な昆虫類

No.	目 名	科 名	種 名	選定基準					
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
12	チョウ	セセリチョウ	アカセセリ			VU			NT
13			スジグロチャバネセセリ						NT
14		アゲハチョウ	ヒメギフチョウ本州亜種			NT	○		
15		シロチョウ	ツマグロキチョウ			VU			EN
16			ヤマキチョウ			VU			
17			ヒメシロチョウ			VU			VU
18		シジミチョウ	ハヤシミドリシジミ					○	
19			クロミドリシジミ					○	
20			ミヤマシジミ			VU			VU
21			アサマシジミ中部地方中山帯亜種			VU			
22			ゴマシジミ中部地方中山帯・中国地方・九州亜種			VU			
23			ヒメシジミ本州・九州亜種			NT			
24			クロツバメシジミ			NT			
25			ウラキンシジミ					○	
26		タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン			NT			
27			ヒョウモンチョウ本州中部亜種			NT			
28			ヒョウモンモドキ			CR+EN			CR
29			オオムラサキ			NT	○		N
30		ジャノメチョウ	キマダラモドキ			NT			N
31			クロヒカゲモドキ			VU			NT
32			サトキマダラヒカゲ						NT
5目14科32種				―					

選定基準は以下のとおり
選定基準Ⅰ：国、県、市町村の天然記念物（1950年制定、文化財保護法）
選定基準Ⅱ：国内希少野生動植物の指定種（1992年制定、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）
選定基準Ⅲ：環境省レッドリスト　昆虫類（2007年、環境省）
EX：絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足
LP：絶滅のおそれのある地域個体群
選定基準Ⅳ：自然環境保全調査報告書（1976年、環境庁）における主要野生動物
選定基準Ⅴ：学識経験者選定種（学識経験者意見により当該地域において重要と判断された種）
選定基準Ⅵ：山梨県レッドデータブック（2005年、山梨県）
EW：野生絶滅　CR：絶滅危惧ⅠA類　EN：絶滅危惧ⅠB類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧
DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群　N：要注目種
分類・配列：「日本産野生生物目録－無脊椎動物編Ⅱ」（1995年、環境庁）

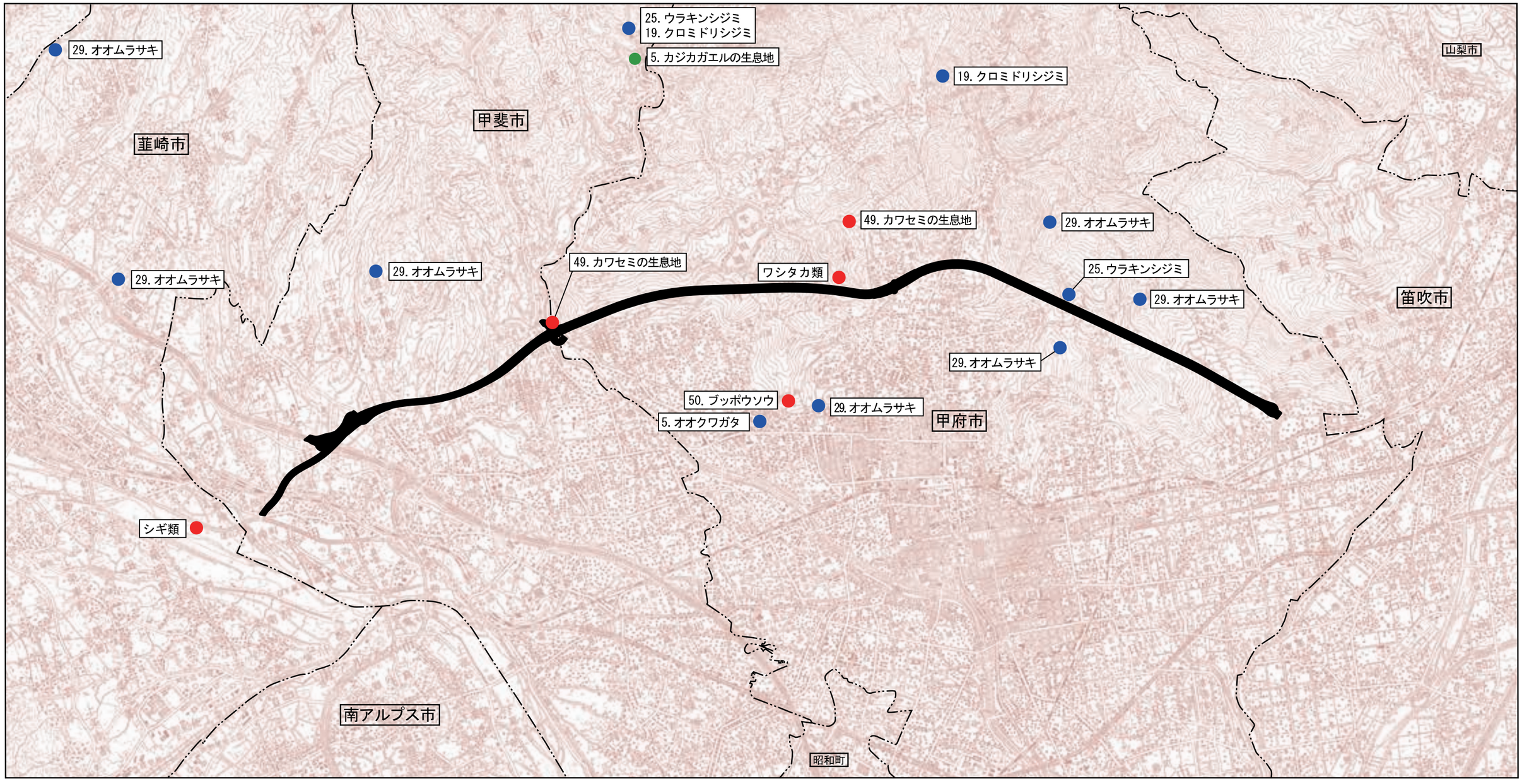
(6) 底生動物

文献調査により確認された重要な底生動物としては、表4-1-35に示す３目３科３種が挙げられる。

表4-1-35　重要な底生動物

No.	目名	科 名	種 名	選定基準							
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
1	モノアラガイ	モノアラガイ	モノアラガイ					NT			
2	マルスダレガイ	シジミ	マシジミ					NT			
3	カメムシ	コオイムシ	コオイムシ			NT					
3目3科3種				―							

選定基準は以下のとおり
選定基準Ⅰ：国、県、市町村の天然記念物（1950年制定、文化財保護法）
選定基準Ⅱ：国内希少野生動植物の指定種（1992年制定、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）
選定基準Ⅲ：環境省レッドリスト　昆虫類（2007年、環境省）
EX：絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足
LP：絶滅のおそれのある地域個体群
選定基準Ⅳ：環境省レッドリスト　その他無脊椎動物(2006、環境省)
EX：絶滅　CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足
LP：絶滅のおそれのある地域個体群
選定基準Ⅴ：環境省レッドリスト　貝類（2007年、環境省）
EX：絶滅　EW：野生絶滅　CR：絶滅危惧IA類　EN：絶滅危惧IB類　VU：絶滅危惧Ⅱ類
NT：準絶滅危惧　DD：情報不足
選定基準Ⅵ：自然環境保全調査報告書（1976年、環境庁）における主要野生動物
選定基準Ⅶ：学識経験者選定種（学識経験者意見により当該地域において重要と判断された種）
選定基準Ⅷ：山梨県レッドデータブック（2005年、山梨県）
EW：野生絶滅　CR：絶滅危惧ⅠA類　EN：絶滅危惧ⅠB類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧
DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群　N：要注目種
分類・配列：「日本産野生生物目録－無脊椎動物編Ⅰ」（1993年、環境庁）
「日本産野生生物目録－無脊椎動物編Ⅱ」（1995年、環境庁）
「日本産野生生物目録－無脊椎動物編Ⅲ」（1998年、環境庁）



凡　例

記　号	名　　称
●	重要な鳥類
●	重要な両生類
●	重要な昆虫類

市町界

都市計画対象道路事業実施区域

1/50,000

1,000　0　1,000　2,000m

N　E　S　W

出典:「主要動植物地図」昭和47年　文化庁
「すぐれた自然図」昭和51年　環境庁

図4-1-25　重要な動物種分布位置図

1.5.2 植物の状況

1) 植生の状況

都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺の現存植生図を図4-1-26に示す。都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺内の山地部ではクヌギ - コナラ群集（⑦ヤブツバキクラス域代償植生）やアカマツ植林（⑥植林地・耕作地植生）が卓越しており、御岳昇仙峡周辺には自然植生であるアカマツ群落（⑨ブナクラス域自然植生）やシラカシ群集（⑨ヤブツバキクラス域自然植生）などが見られる。丘陵地部から低地部にかけては桑畑、果樹園、水田などの耕作地及び市街地で占められており、自然植生の現存しているところは少ない。

注）○数字は植生自然度の高さを示す。市街地など植生のほとんど残存しない地区を①とし、以降農耕地などが②～③、ササ、ススキ群落などの二次草原が④～⑤、植林地が⑥、二次林などの代償植生地区が⑦～⑧、極相林や自然草原などを⑨～⑩とする。

2) 植物相の状況

文献調査により確認された都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺に生育している植物として、表4-1-36に示す135科912種が挙げられる。

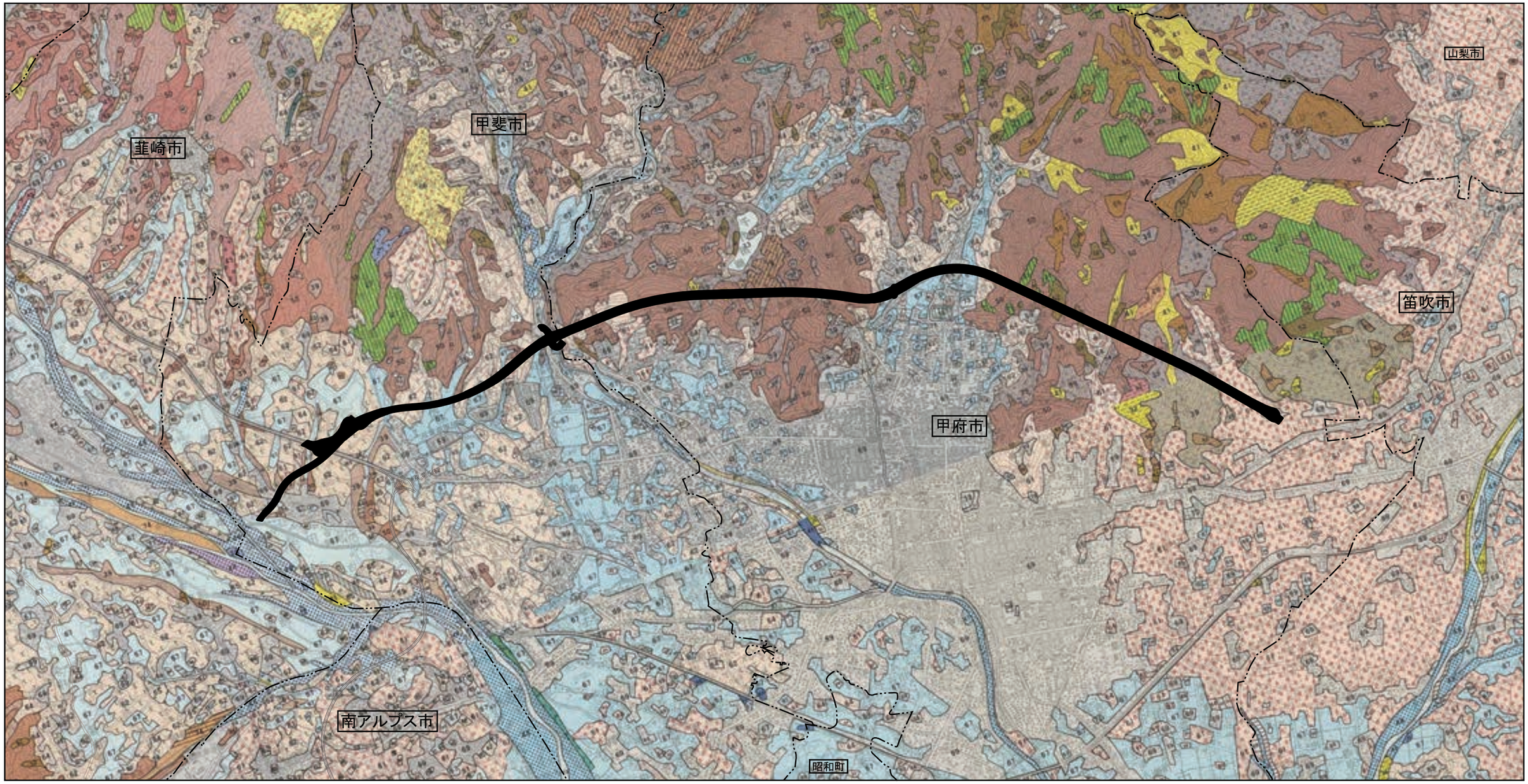
都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺は甲府盆地の北側に位置しており、植物垂直分布から見て標高300ｍまでのカシ帯に属していると見られている。「山梨の植物誌」（1981年 植松春雄）によると、カシ帯においては、アラカシ、コクサギ、ネムノキ、キッコウハグマ、ササユリ、ホトトギス等が見られ、河川敷にはカワヤナギ、エノキ、イヌビエ、ツルヨシ等が生育するとされている。

表4-1-36　植物相確認種数

区　分				科 数	種 数
シダ植物				15	37
種子植物				120	875
	裸子植物			5	12
	被子植物			115	863
		単子葉植物		17	223
		双子葉植物		98	640
			離弁花類	70	412
			合弁花類	28	228
合 計				135	912

注）使用した文献における地域区分は広域的であるため、表中の種について、調査区域以外に生育する種も含まれている可能性がある。また、文献の発行当時より都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺の土地利用等の状況が大きく変化しているため、表中の種について、現在では生育していない種も含まれている可能性がある。

出典：「山梨の植物誌」（1981年　植松春雄）
「第３回自然環境保全基礎調査　植生調査報告書（山梨県）」（1988年　環境庁）
「河川水辺の国勢調査　富士川植物調査」（平成８年　関東地方建設局甲府工事事務所）
「甲府の自然」（平成元年　甲府市）
「韮崎市誌」（昭和53年　韮崎市）
「敷島町誌」（昭和41年　敷島町）
「石和町誌」（昭和62年　石和町）
「双葉町誌」（昭和52年　双葉町）
「春日居町誌」（昭和63年　春日居町）
「河川環境データベース（河川水辺の国勢調査）」（平成13年度　国土交通省）



凡例

記号	名称	記号	名称	記号	名称	記号	名称	記号	名称	記号	名称	記号	名称
Ⅰ.寒帯、高山帯自然植生		Ⅳ.ブナクラス域自然植生			フジアカショウマーシモツケソウ群集	Ⅵ.ヤブツバキクラス域自然植生			ヤマツツジーアカマツ群集		カラマツ植林		水田雑草群落
	コケモモーハイマツ群集		ヤマボウシーブナ群集		フジアザミーヤマホタルブクロ群集		モミーシキミ群集		クズ群落(林縁性ツルー低木群落)		外国産広葉樹植林		休耕田雑草群落
	コメバツガザクラーミネズオウ群集 コマクサーイワツメクサクラス		イヌブナ群集		オオヨモギーオオイタドリ群団		サカキウラジロガシ群集	Ⅶ.河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生			ヤマハンノキ植林 (コバノヤマハンノキも含む)	Ⅹ.その他	
Ⅱ.亜寒帯、亜高山帯自然植生			オオモミジガサーブナ群集		ケヤキ群落		ケヤキーイロハモミジ群集		ヨシクラス (低層湿原・セイコヨシを含む)		竹林		市街地
	シラビソーオオシラビソ群集		ツガーコカンスゲ群集	Ⅴ.ブナクラス域代償植生			シラカシ群集		ウキクサクラス・ヒルムシロクラス		常緑果樹園(ミカン・ユズ等)		緑の多い住宅地(緑被率60%以上)
	カラマツ群落		ウラジロモミーコメツガ群落 ハリモミ群落		クリーミズナラ群落		イノデータブ群集		ツルヨシ群集		落葉果樹園		工場地帯
	ミドリユキザサーダケカンバ群団		ヒノキーシノブカグマ群集		レンゲツツジーシラカンバ群落		河辺ヤナギ低木群落(河辺低木を含む)		オギ群集		桑園		造成地・裸地
	シナノキンバイ ミヤマキンポウゲ群団		アカマツ群落		ニシキウツギーノリウツギ群落	Ⅶ.ヤブツバキクラス域代償植生		Ⅸ.植林地・耕作地植生			茶畑		開放水域
Ⅲ.亜寒帯、亜高山帯代償植生			ミヤマクマワラビーシオジ群集 (オヒョウータイミンガサモドキ群集)		カワラマツバーススキ群落		クヌギーコナラ群集		アカマツ植林		畑地雑草群落(シロザクラス)		自然裸地
	伐跡群落		タマアジサイーフサザクラ群集 ヤシャブシ群落		シバ群団		伐跡群落		スギ・ヒノキ・サワラ植林		ヒメムカシヨモギー オオアレチノギク群落		
	ダケカンバ群落		ドロノキーオオバヤナギ群落		伐跡群落		アズマネザサーススキ群集		ウラジロモミ植林・シラビソ植林		牧草地(人工草地)		

1/50,000

1,000　0　1,000　2,000m

—··—··— 市町界

■■■■■ 都市計画対象道路事業実施区域

出典：第３回自然環境保全基礎調査（植生調査）
「現存植生図　韮崎」昭和63年　環境庁
「現存植生図　御岳昇仙峡」昭和61年　環境庁
「現存植生図　鰍沢」昭和63年　環境庁
「現存植生図　甲府」昭和60年　環境庁

図4-1-26　現存植生図

3) 重要な植物の状況

(1) 重要な植物群落

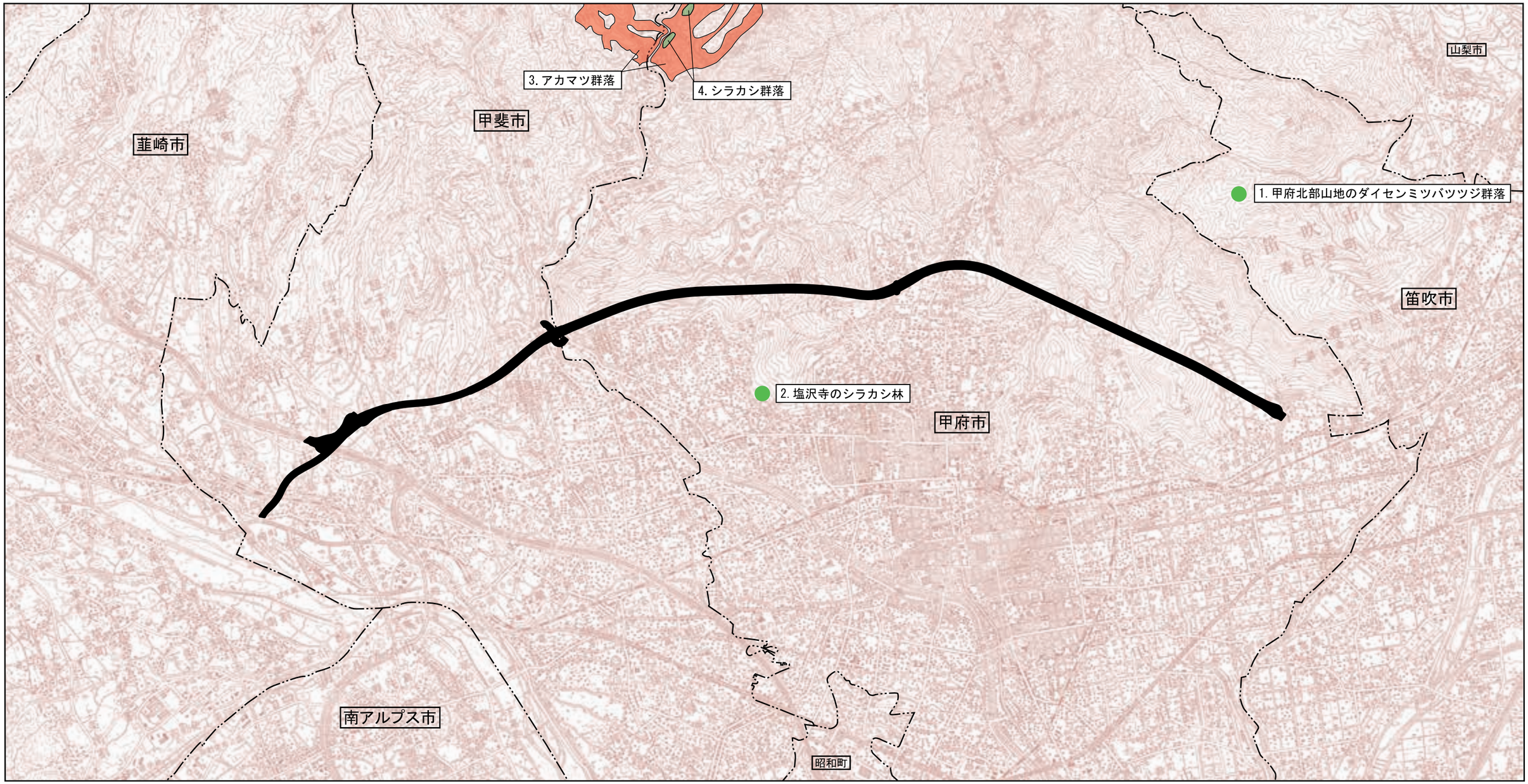
都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺では、表4-1-37に示すとおり、重要な植物群落が４箇所確認されている。これらの確認位置は、図4-1-27に示すとおりである。

このうち、甲府北部山地のダイセンミツバツツジ群落と塩沢寺のシラカシ林は「第２回、第３回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」（昭和56年、平成元年、環境庁）による特定植物群落となっている。さらに、塩沢寺のシラカシ林は甲府市指定天然記念物（昭和62年3月31日指定）となっている。

表4-1-37　重要な植物群落

No.	重要な植物群落	選定基準						
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ
1	甲府北部山地のダイセンミツバツツジ群落			C		C	②	
2	塩沢寺のシラカシ林	Ⅰc		A		A	①	
3	アカマツ群落				⑨			
4	シラカシ群落				⑨			

選定基準は以下のとおり
選定基準Ⅰ：国、県、市町村の天然記念物（1950年制定、文化財保護法）
　　Ⅰa：国指定　Ⅰb：山梨県指定　Ⅰc：市町村指定
選定基準Ⅱ：自然環境保全基礎調査報告書　すぐれた自然図（1976年、環境庁）
選定基準Ⅲ：第２回自然環境保全基礎調査　山梨県動植物分布図（1981年、環境庁）
　　A：原生林もしくはそれに近い自然林
　　C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
選定基準Ⅳ：第３回自然環境保全基礎調査　現存植生図（1989年、環境庁）
　　⑨：植生自然度９該当群落　⑩：植生自然度10該当群落
選定基準Ⅴ：第３回自然環境保全基礎調査　自然環境情報図（1989年、環境庁）
　　A：原生林もしくはそれに近い自然林
　　C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
選定基準Ⅵ：植物群落レッドデータブック（1996年、(財) 日本自然保護協会他）
　　①：要注意　②：破壊の危惧
選定基準Ⅶ：第４回自然環境保全基礎調査　自然環境情報図（1995年、環境庁）



凡　例

記　号	名　　称
●	特定植物群落
▭	アカマツ群落
▭	シラカシ群落

—·—·— 市町界

■■■ 都市計画対象道路事業実施区域

1/50,000

1,000　0　1,000　2,000m

N　E　S　W

出典:「第2回自然環境保全基礎調査」昭和56年　環境庁
「第3回自然環境保全基礎調査」平成元年　環境庁

図4-1-27　重要な植物群落位置図

(2) 重要な植物種

文献調査により確認された重要な植物種は、表4-1-38に示すとおり29科46種である。また、これらのうち、生育位置が判明している種は、図4-1-28に示すとおりである。

「環境省レッドリスト　維管束植物」（2007年、環境省）に記載されている種のうち、都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺にはデンジソウ、サンショウモ、カザグルマ、キキョウなどが生育しているとされている。

また、都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺には、県指定天然記念物が甲府市岩窪の「岩窪のヤツブサウメ」をはじめ６件存在するとともに、市町指定天然記念物が甲府市湯村の「松本のコノテガシワ」はじめ23件存在する。さらに、巨樹・巨木については「善光寺のケヤキ」など67件存在する。

表4-1-38(1)　重要な植物種

No.	科 名	種 名	選定基準							
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
1	メシダ	ウサギシダ							EN	
2	デンジソウ	デンジソウ			NT	V			CR	
3	サンショウモ	サンショウモ			NT				NT	
4	スギ	スギ							DD	
5	ブナ	スタジイ							VU	
6	クワ	カジノキ							DD	
7	モクレン	サネカズラ							VU	
8	キンポウゲ	レンゲショウマ					○			
9		カザグルマ			NT	V			EN	
10		オキナグサ			VU	V			VU	
11	ケシ	ヤマブキソウ							VU	
12	ベンケイソウ	ツメレンゲ			NT	V			VU	
13	マメ	レンリソウ							DD	
14		イヌハギ			NT				NT	
15	トウダイグサ	ヒトツバハギ							VU	
16	ミカン	カラスザンショウ							VU	
17		フユザンショウ							VU	
18	ミツバウツギ	ゴンズイ							EN	
19	スミレ	ヒメスミレサイシン							NT	
20	ヒルガオ	マメダオシ			CR				EN	
21	シソ	ミゾコウジュ			NT	V			DD	
22	ゴマノハグサ	イヌノフグリ			VU				EN	
23		カワヂシャ			NT				NT	

表4-1-38(2)　重要な植物種

No.	科 名	種 名	選定基準							
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
24	キキョウ	キキョウ			VU				NT	
25	キク	タウコギ							DD	
26		フジバカマ			NT	EN			EW	
27		アキノハハコグサ			VU				DD	
28		タカサゴソウ			VU				CR	
29		オナモミ			VU				NT	
30	オモダカ	ヘラオモダカ							NT	
31	トチカガミ	ミズオオバコ			VU				EN	
32	ヒルムシロ	イトモ			NT				EN	
33	ユリ	ヤマユリ							NT	
34		ササユリ							CR	
35	ヒガンバナ	キツネノカミソリ							NT	
36	ミズアオイ	ミズアオイ			NT	V				
37	イネ	アワガエリ							DD	
38		ヒエガエリ							DD	
39		ハマヒエガエリ							DD	
40		マコモ							EN	
41	カヤツリグサ	ハマスゲ							EN	
42		カンガレイ							VU	
43	ラン	エビネ			NT	V			VU	
44		ギンラン							VU	
45		キンラン			VU				EN	
46		クマガイソウ			VU	V			EN	
29科46種			―							

表4-1-38(3)　重要な植物種（巨樹・巨木）

No.	種 名	選定基準							
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
1	岩窪のヤツブサウメ	Ⅰb							
2	塩部寿のフジ	Ⅰb					○		
3	塩沢寺の舞鶴のマツ	Ⅰb							
4	竜地の楊子梅	Ⅰb							
5	永岳寺の大カシ	Ⅰb							

表4-1-38(4)　重要な植物種（巨樹・巨木）

No.	種 名	選定基準							
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
6	苗敷山のアスナロ	Ⅰb							
7	東光寺町稲荷神社のサカキ	ⅠC					○		
8	玄法院のイチョウ	ⅠC							
9	法泉寺のクロマツ	ⅠC					○		
10	上石田のサイカチ	ⅠC					○		
11	寺平のオニグルミ	ⅠC					○		
12	普禅院のカヤ	ⅠC					○		
13	宝珠寺のヒイラギ	ⅠC					○		
14	竜蔵院のムクロジ	ⅠC							
15	妙善寺のカヤ	ⅠC							
16	日之城の大ナシ	ⅠC					○		
17	若宮八幡宮鶴亀の松	ⅠC					○		
18	宮久保のクヌギ	ⅠC					○		
19	勝手神社のケヤキ	ⅠC					○		
20	苗敷山の高野マキ	ⅠC							
21	松本のコノテガシワ	ⅠC					○		
22	別田のゴヨウマツ	ⅠC							
23	山梨岡神社のフジ	ⅠC							
24	野牛島のビャクシン	ⅠC							
25	能蔵のエドヒガンザクラ	ⅠC							
26	法久寺のコツブガヤ	ⅠC							
27	法久寺のカシワ	ⅠC							
28	牧洞寺のモミ	ⅠC							
29	上八幡のヒイラギ	ⅠC							
30	善光寺のケヤキ(1)						○		
31	善光寺のケヤキ(2)						○		
32	要害山のシダレアカマツ						○		
33	日吉神社のナシ						○		
34	白山神社のヒノキ						○		
35	武田神社のケヤキ(1)						○		
36	武田神社のケヤキ(2)						○		
37	信虎公墓所前のスギ						○		
38	大泉寺のスギ						○		
39	八幡宮のケヤキ(1)						○		
40	八幡宮のケヤキ(2)						○		

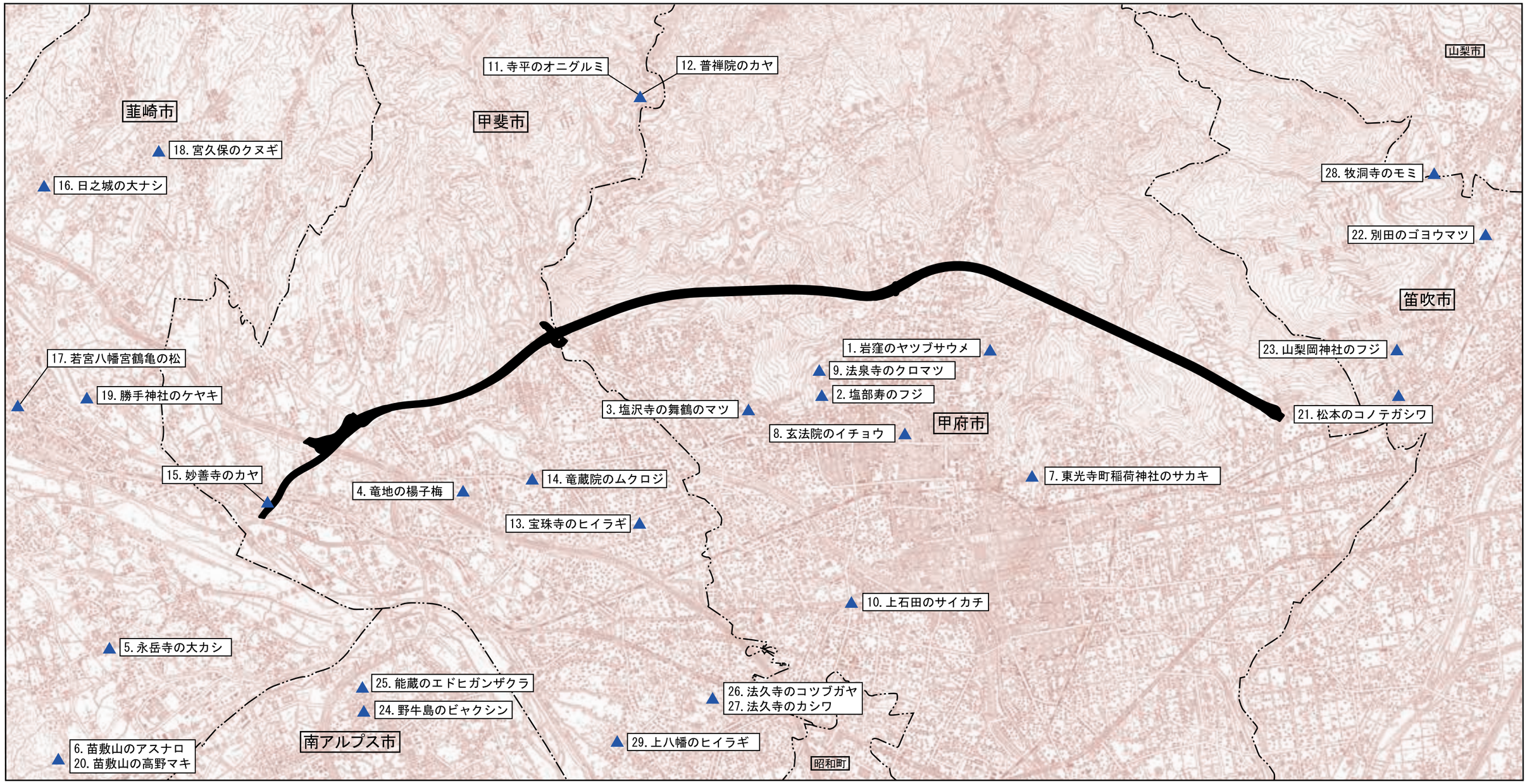
表4-1-38(5)　重要な植物種（巨樹・巨木）

No.	種 名	選定基準							
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
41	愛宕神社のカヤ						○		
42	中央三丁目のオガタマノキ						○		
43	舞鶴公園のエノキ						○		
44	舞鶴公園のケヤキ						○		
45	山梨大学構内のモミジバスズカケノキ						○		
46	相沢家のケヤキ						○		
47	桂田家のケヤキ						○		
48	塚原のモミ						○		
49	高畑のシンジュ						○		
50	天津司神社のケヤキ						○		
51	法泉寺のカヤ						○		
52	朝日小学校のバッコヤナギ						○		
53	朝日小学校のケヤキ						○		
54	原山神社のエノキ						○		
55	西中学校のシンジュ						○		
56	飯田のエノキ(1)						○		
57	飯田のエノキ(2)						○		
58	湯谷神社のモミ						○		
59	湯谷神社のケヤキ						○		
60	千塚三丁目のケヤキ						○		
61	千塚小学校のケヤキ(1)						○		
62	千塚小学校のケヤキ(2)						○		
63	千塚四丁目のケヤキ						○		
64	平瀬笠井宅のケヤキ						○		
65	平瀬のヒマラヤスギ						○		
66	天沢寺のスギ						○		
67	牛句横山本家のケヤキ(1)						○		
68	牛句横山本家のケヤキ(2)						○		
69	横山本家のイチョウ						○		
70	敷島八幡神社のケヤキ						○		
71	しきしま幼稚園のケヤキ						○		
72	大下条三井家のケヤキ						○		
73	竜地のエゾエノキ						○		
74	竜地井上宅のケヤキ						○		

表4-1-38(6)　重要な植物種（巨樹・巨木）

No.	種 名	選定基準							
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
75	船形神社のケヤキ						○		
76	金剛地のケヤキ						○		
77	南宮神社のスギ						○		
78	永岳寺のシラカシ						○		
79	大公寺のスギ						○		
80	苗敷山のコウヤマキ						○		
81	上条南割のアスナロ						○		
82	勝手神社のエノキ						○		
83	宮久保のヤマトアオダモ						○		
84	三之蔵のクヌギ						○		

選定基準は以下のとおり
選定基準Ⅰ：国、県、市町村の天然記念物（1950年制定、文化財保護法）
Ⅰa：国指定　Ⅰb：山梨県指定　Ⅰc：市町村指定
選定基準Ⅱ：国内希少野生動植物の指定種（1992年制定、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）
選定基準Ⅲ：環境省レッドリスト　維管束植物（2007年、環境庁）
CR：絶滅危惧ⅠA類　EN：絶滅危惧ⅠB類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧　DD：情報不足
選定基準Ⅳ：我が国における保護上重要な植物種の現状（1989年、(財)日本自然保護協会）EN：絶滅寸前
V：危険　U：現状不明
選定基準Ⅴ：緑の国勢調査－自然環境保全基礎調査報告書－（環境庁　1976年）
選定基準Ⅵ：「日本の巨樹・巨木林（甲信越・北陸版)」に掲載されているもの
選定基準Ⅶ：山梨県レッドデータブック（2005年、山梨県）
EW：野生絶滅　CR：絶滅危惧ⅠA類　EN：絶滅危惧ⅠB類　VU：絶滅危惧Ⅱ類　NT：準絶滅危惧
DD：情報不足　LP：絶滅のおそれのある地域個体群
選定基準Ⅷ：山梨県希少野生動植物の保護に関する条例（山梨県条例第34号　2007年）
指：指定希少野生動植物種　特：特定希少野生動植物種



凡　例

記　号	名　　称
▲	天然記念物

市町界

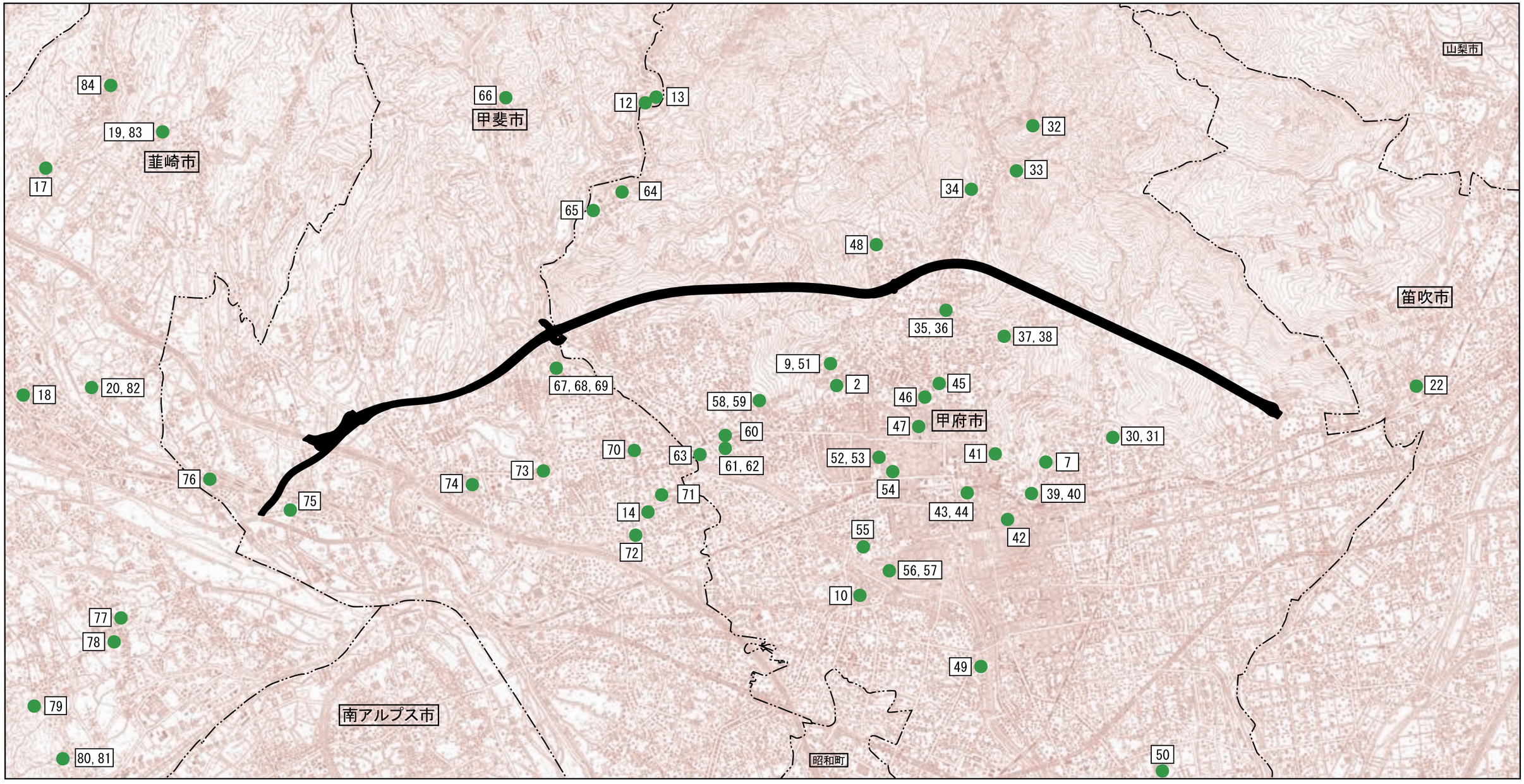
都市計画対象道路事業実施区域

1/50,000

1,000　0　1,000　2,000m

出典：「笛吹市文化財ガイドマップ」笛吹市教育委員会社会教育課
「甲府市内の文化財一覧」平成21年12月1日現在　甲府市教育部生涯教育振興室文化振興課
「甲斐市内指定文化財一覧」平成21年　甲斐市教育委員会生涯学習文化課
「武田の里　韮崎市の文化財」平成16年　韮崎市教育委員会
「文化財関係－史跡・遺跡・一般文化財等－」　韮崎市
「やまなしし文化財ガイドブック」平成22年3月　山梨市教育委員会
「山梨県南アルプス市文化財年報－平成20年度－」平成21年3月　南アルプス市教育委員会文化財課
「南アルプス市の史跡・文化財」平成22年2月　南アルプス市教育委員会文化財課

図4-1-28(1)　重要な植物種
（天然記念物）分布位置図



凡　例

記号		名　称																	
●	巨樹・巨木林	2	塩部寿のフジ	19	勝手神社のケヤキ	38	大泉寺のスギ	48	塚原のモミ	58	湯谷神社のモミ	68	牛句横山本家のケヤキ(2)	78	永岳寺のシラカシ				
		7	東光寺町稲荷神社のサカキ	21	松本のコノテガシワ	39	八幡宮のケヤキ(1)	49	高畑のシンジュ	59	湯谷神社のケヤキ	69	横山本家のイチョウ	79	大公寺のスギ				
		9	法泉寺のクロマツ	30	善光寺のケヤキ(1)	40	八幡宮のケヤキ(2)	50	天津司神社のケヤキ	60	千塚三丁目のケヤキ	70	敷島八幡神社のケヤキ	80	苗敷山のコウヤマキ				
		10	上石田のサイカチ	31	善光寺のケヤキ(2)	41	愛宕神社のカヤ	51	法泉寺のカヤ	61	千塚小学校のケヤキ(1)	71	しきしま幼稚園のケヤキ	81	上条南割のアスナロ				
		11	寺平のオニグルミ	32	要害山のシダレアカマツ	42	中央三丁目のオガタマノキ	52	朝日小学校のバッコヤナギ	62	千塚小学校のケヤキ(2)	72	大下条三井家のケヤキ	82	勝手神社のエノキ				
		12	普禅院のカヤ	33	日吉神社のナシ	43	舞鶴公園のエノキ	53	朝日小学校のケヤキ	63	千塚四丁目のケヤキ	73	竜地のエゾエノキ	83	宮久保のヤマトアオダモ				
		13	宝珠寺のヒイラギ	34	白山神社のヒノキ	44	舞鶴公園のケヤキ	54	原山神社のエノキ	64	平瀬笠井宅のケヤキ	74	竜地井上宅のケヤキ	84	三之蔵のクヌギ				
		16	日之城の大ナシ	35	武田神社のケヤキ(1)	45	山梨大学構内のモミジバスズカケノキ	55	西中学校のシンジュ	65	平瀬のヒマラヤスギ	75	船形神社のケヤキ						
		17	若宮八幡宮鶴亀の松	36	武田神社のケヤキ(2)	46	相沢家のケヤキ	56	飯田のエノキ(1)	66	天沢寺のスギ	76	金剛地のケヤキ						
		18	宮久保のクヌギ	37	信虎公墓所前のスギ	47	桂田家のケヤキ	57	飯田のエノキ(2)	67	牛句横山本家のケヤキ(1)	77	南宮神社のスギ						

1/50,000

1,000　0　1,000　2,000m

市町界

都市計画対象道路事業実施区域

出典:「日本の巨樹・巨木林(甲信越・北陸版)」平成3年　環境庁
「山梨県巨木誌」平成4年　山梨県植物研究会
「第4回自然環境保全基礎調査」平成7年　環境庁

図4-1-28(2)　重要な植物種
（巨樹・巨木林）分布位置図

1.5.3 生態系の状況

(1) 生態系の概況

都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺の地形、環境構成要素をみると、釜無川や荒川、笛吹川などの周辺に広がる甲府盆地から秩父山地に至る地域であり、山地部ではクリ、クヌギ、コナラといった広葉樹林やアカマツ林を基本とした樹林を中心とした生態系が成立している。また、甲府盆地周辺ではクヌギ林、アカマツ林、スギ・ヒノキ植林といった樹林環境に加えて水田、畑地、果樹園といった農耕地や草地が加わり、樹林を中心とした比較的多様な生態系が成立している。

水辺環境は、主に河川周辺と千代田湖ならびに水田に限られるが、それぞれで多少異った生態系を有していると考えられる。

(2) 自然環境の類型化及び生息・生育基盤の分類

生物の生息・生息基盤となっている地形条件と植生条件とを重ね合わせることにより自然環境の類型区分を行ない、生態系の概略を把握することとした。類型区分図の作成に当っては、動物や植物の生息・生育環境として関連が強いと考えられる地形分類図と現存植生図を組合わせることにより実施した。都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における自然環境類型区分を表4-1-39及び図4-1-29に示す。

表4-1-39　都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における自然環境類型区分の概況

No.	類型区分	地形区分の概況	植生区分の概況	生息・生育基盤の種類
1	山地－自然林	標高500m以上のところに広がる山地である。 秩父山地へと続いている。	アカマツ群落	樹林地
			タマアジサイ－フサザクラ群集	
			モミ－シキミ群集	
			シラカシ群集	
2	山地－二次林・二次草原		クリ群落	
			クヌギ－コナラ群集	
			ニシキウツギ－ノリウツギ群落	
			カワラマツバ－ススキ群落	疎林、林縁、草地、農耕地
			アズマネザサ－ススキ群落	
			伐跡群落	
3	山地－人工林		アカマツ植林	樹林地
			スギ・ヒノキ植林	
			カラマツ植林	
4	山地－農耕地		落葉果樹園	疎林、林縁、草地、農耕地
			桑園	
			畑地雑草群落	
			水田雑草群落	
5	低地・台地－二次林・二次草原	標高500m以下のところに広がる甲府盆地である。	クヌギ－コナラ群集	樹林地
			ヒメムカシヨモギ－オオアレチノギク群落	疎林、林縁、草地、農耕地
6	低地・台地－農耕地		落葉果樹園	
			桑園	
			畑地雑草群落	
			水田雑草群落	
7	自然草原・開放水域	釜無川、笛吹川、荒川、濁川などが流れている。	ツルヨシ群集	湖・川・沢・ため池・水際
			開放水域	
8	市街地	主に甲府盆地周辺に広がっている。	市街地	－
			緑の多い住宅地	
			造成地	